



谷戸は小さな宇宙そして桃源郷

カワセミだより

2010年3月30日発行

「奈良川源流域を守る会」

会長／渡辺 坦 <http://nara.yato.jp/> e-mail:nara@yato.jp

第12号

高まる自然公園化への期待（源流域内市有地）

アンケート結果が示す、環境に対する強い関心

◇都市計画道路 奈良1号線の計画廃止

昭和40年代までに作られた都市計画では、奈良川源流域を通る幅員16メートルの奈良1号線が計画されていました。これは、奈良小学校前を通る道とTBS前を通る道の交差点から、ケアプラザ南側を通って奈良町第2公園近くの田んぼに至る道路で、柿生町田線という都市計画道路と接続する予定でした。



奈良1号線⑬の計画図。
⑭は柿生町田線。

横浜市都市計画道路説明資料より

しかし、平成19年からその見直しが行われ、平成21年12月に、奈良1号線の計画は、

周辺道路のネットワークにより本路線の交通機能が代替でき、計画地周辺には豊かな緑が残されている

ため、周辺環境や土地利用の観点などから総合的に判断し、全線を廃止します。

(<http://www.city.yokohama.jp/me/douro/plan/>参照)として廃止されました。

◇奈良1号線計画地周辺の自然公園化を提案

奈良1号線の通る予定であった奈良川源流域は、鳥類や昆虫、水生動物、ならびに多種の植物の宝庫であり、絶滅危惧種や希少種も多く存在していることが確認されています。ここは、都市部に残された貴重な自然環境として、近隣住民の憩いの場となっており、少し離れたところから散歩に訪れる人もたくさんいます。

当会では、都市計画道路見直しに対する意見募集のあった時から奈良1号線の廃止を求めるとともに、見直しが行われている時期に、奈良川源流域において、この道路のために横浜市が取得している土地（ケアプラザ南側の空き地、奈良町はらっぱ広場、ナチュラパス西側のヨシ原など）の自然公園化を提案してきました。

すなわち、まず平成21年6月にその素案を作り、7月、8月に、計画地とそれに隣接する自治会町内（奈良上、小田急学園奈良、玉川学園台）の全戸、ならびに周辺の集合住宅等の各戸に対して、その素案を合計約2800部配布しました。これによるアンケート調査をしたところ、226通の葉書でご意見をいただきました。



自然公園化素案イラスト

◇住民の意見を提案に反映

いただいた葉書の大部分は自然公園化を望むものであり、具体化方法について多数のご意見をいただきました。それをもとの素案に反映させ、次の内容を骨子とする提案書を作りました。

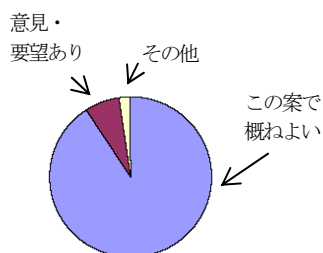
- ・多種多様な動植物が棲息・生育できるよう、この源流域の自然を保全し、近隣の人々が憩い、子供達が元気に遊べる場とする。
- ・奈良川源流域の水源を利用して、現状の3面コンクリート水路を改め、魚類や貝類、カエル類、昆虫類などが棲息できる多自然型の小川を復元する。
- ・源流域に、できるだけ自然の形態を残した湿地公園、草はら公園、樹林地を設ける。
- ・湿地公園には、水性生物のための池とヨシ原、ならびに環境教育に役立つ田んぼを設ける。池は安全のために柵をして立ち入りを禁止する。
- ・草はら公園には、浅くて幼児も遊べる小さい池を設けるが、遊具等は置かず、自然の草はらとする。ケアプラザ南側の一部に野草園を設ける。
- ・小田急分譲地との間の北斜面は、クズやササなどが繁茂しすぎた場合以外はあまり手を加えず、自然の樹林地として残す。
- ・十分な安全対策をとり、遊歩道や木陰、ベンチ等を置いて、幼児から高齢者までの人々、ならびに、身体の不自由な人々も安心して楽しめる場所とする。

この提案書を、平成21年9月から10月にかけて、横浜市政道路局と青葉区に提出するとともに、横浜市長へも陳情書として提出しました。

◇近隣住民の意見 — 大多数が自然公園化を希望

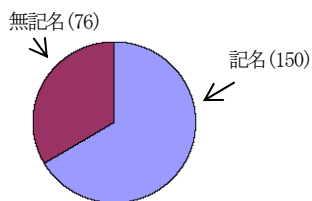
住民の皆様から頂いたご意見を整理すると、次のようなものでありました。

(1) 回答用葉書における項目選択



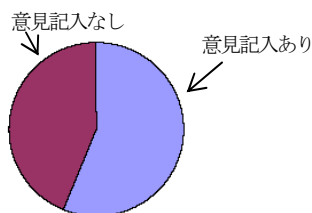
「概ね良い」を選択して具体意見を書かれた方がたくさんおいででした。

(2) 葉書への記名状況



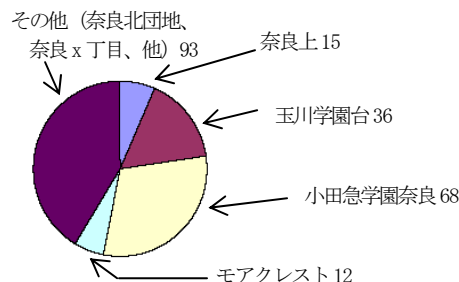
回答用葉書には無記名も可と表示されていましたが記名者の方が多いという結果でした。

(3) 具体意見の記入

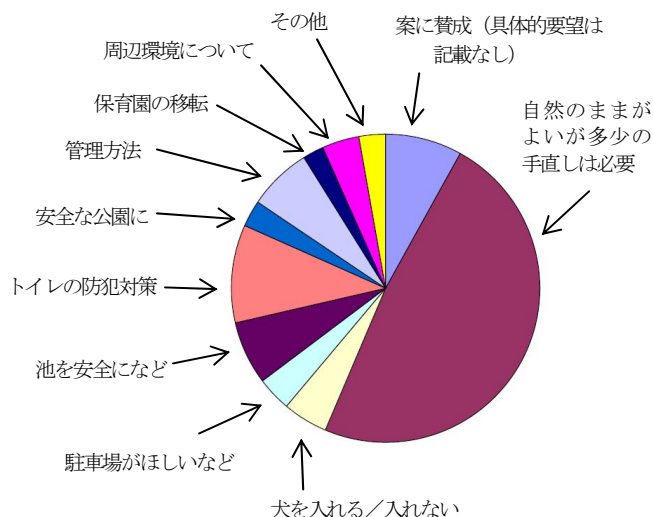


具体意見を書かれた方の多さから、自然公園化に対する関心の高さが感じられます。

(4) 回答者の所属自治会



(5) 具体意見の内容 (1枚の葉書に複数の意見が書かれている場合があるので、件数の合計は葉書枚数とは合いません)



◇公園化の実現にむけて

提案書の内容や住民の意見等について、さらに詳しいことは、当会のホームページ

<http://nara.yato.jp/>

における「自然公園化提案」のページに記載されています。

これから見て、奈良1号線計画地に対する近隣住民の関心はとても高く、奈良川源流域の自然を大切にしたいと思って自然公園化を強く望んでいる方々の多いことがわかりました。当会は、この実現に向けて、横浜市の関係部局と、今後も交渉を続けてゆきたいと思っています。

奈良川源流域で 環境省の長期的な生態観測調査が始まる

環境省は、生物多様性国家戦略の一環として、全国に1000カ所の調査サイトを設置し、5年周期で100年間長期継続してモニタリングを実施し、生物種の減少など生態系の異変をいち早く捉え、迅速かつ適切な保全施策につなげるため、「**モニタリングサイト1000**」の事業を行っています。その里地調査サイトの1つとして奈良川源流域が選ばれたので、当会

では、2008年9月から、鳥類調査、植物相調査、ならびにホタル調査を始めました。それには、玉川大学生物自然研究部の有志の方々にも参加していただいています。調査データは、環境省から近く公表されますが、ここでは、まず、植物相調査の概要について紹介します。

植物相調査の結果概要

◇調査方法

その調査では、この源流域においてあるルートを定め、それをいくつかの区間に分割し、毎月、そこで見かけた蕾や花、実のある植物を区間ごとにすべて記録しています。

◇観察された植物の種類数

2008年9月から2009年8月までの1年間で、調査ルート上で見かけた植物の種類は、

種類数 397 種

科の数 90 科

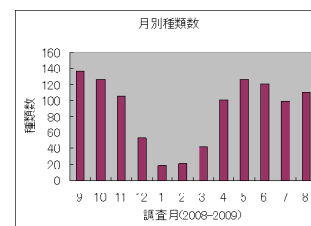
でした。記録された種類数の多い科としては

キク科	58 種
イネ科	52 種
カヤツリグサ科	16 種
バラ科	16 種
マメ科	16 種
ユリ科	14 種
シソ科	13 種
タデ科	11 種

などがありました。

◇月別の種類数

蕾、花、実の観察された植物を月別に見ると、下図のように、多い月で137種、少ない月で19種でした。



月別種類数(2008/9-2009/8) 希少種であるマツカサスキ

◇判明したこと

奈良川源流域には、絶滅危惧種や希少種もいろいろ自生していることが確認されました。他の地域ではセイヨウタンポポの優勢が伝えられますが、ここでは在来種であるカントウタンポポも健在です。一方、林を開発したあとなどには、在来種を圧迫するとして特定外来種に指定されているオオキンケイギクの群落が早くもできています。

2年間にわたる、毎週の鳥類調査の結果まとめ

◇調査の趣旨 — 自然環境を示す具体データを収集

奈良川源流域には、まだ林や水田、草原などがあって、たくさん生物が生息しています。ここは、都市部にあるにもかかわらず、小鳥ばかりでなく、キジやタカ類（チョウゲンボウ、ツミ）などが営巣しています。それをしっかりと具体的なデータで示し、環境保全の計画策定などに役立てることができるようにするために、ラインセンサスという方法で調査を毎週行っています。それは、あるルートを定め、そこで出会ったすべての鳥類の種類と個体数を記録してゆくものです。

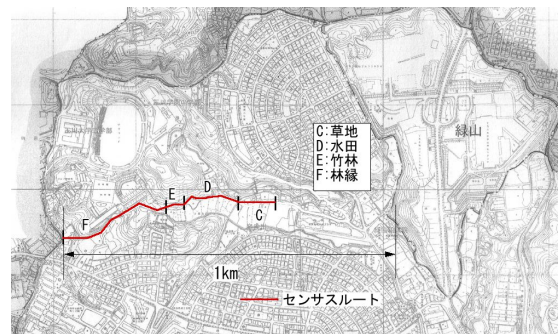
ここでは、2007年10月から2009年9月までの2年分の記録データをあげますが、調査自体はその後もうずっと継続して行っています。

◇調査のやりかた

(1) 調査地域は典型的な里山

調査ルート（センサスルート）は、下図の奈良町土橋谷戸

(C 右端) から玉川学園敷地南側の階段下 (F 左端) まで、約 600m です。そこは谷戸の地形を呈し、水源および水田、その周囲の樹林や住宅地を含む典型的な里山です。



センサスルートの位置

(2) 鳥の種類ごとの数を記録

調査では、毎週土曜日（雨天は休み）07:00 より 40 分程度、ルート上を歩きながら、双眼鏡を用いて、視認あるいは鳴き声で確認したすべての鳥類の種類とその個体数を記録します。センサス時間外の記録は集計に含めませんでした。

◇調査結果 — 他では少なくなった多くの鳥を確認

紙面の都合で、1年を1～3月、4～6月、7～9月、10～12月の4つの小期間に分割し、各調査日の確認個体数をその小期間ごとに平均した数を表1に示します。(平均値が0より大きく1未満の場合は1としてあります。)単純平均の欄は、種類ごとの観測総数を観測日数で割ったもので、小数点以下3桁目を四捨五入してあります。3か月ごとではなく、月ごとにまとめたもっと詳しい情報は、当会のホームページ

<http://nara.yato.jp/>
の鳥のページに載せてあります。

表1. 2007-2009年鳥類ラインセンサス集計結果

	各回の個体数 (3ヶ月ごとの平均)										単純平均
	2007年			2008年			2009年				
種	10-12	1-3	4-6	7-9	10-	1-3	4-6	7-9			
カワウ	1	1	1	1	1	1	1	1		0.22	
コサギ						1				0.01	
アオサギ	1			1				1		0.04	
オシドリ	1									0.02	
カルガモ	2		1				1	1		0.48	
ハイタカ					1					0.37	
チョウゲンボウ	1	1	1	1	1	3	2	1		1.09	
キジ	1	1	1			1	1			0.54	
キジバト	3	4	2	3	5	7	3	4		5.24	
ホトトギス			2					1		0.02	
カワセミ			2		1	1	1	1		0.14	
アオゲラ	1	1	1	1	1	1		1		0.29	
コゲラ	1	1	1	1	1	2	1	1		0.91	
ツバメ			2	1			5	2		1.45	
キセキレイ		1	2	1	1	1				0.22	
ハクセキレイ	2	2	2	1	1	1	1	2		1.11	
セグロセキレイ	1	1	2	1	1	1	1			0.24	
ビンズイ			2		1	1	1			0.08	
ヒヨドリ	16	9	7	5	21	14	20	9		16.01	
モズ	2	1	1	1	2	1		1		1	
ジョウビタキ	1	1		1	1	1				0.43	
アカハラ		1			1	1				0.09	
シロハラ	1	1			1	1				0.08	
ツグミ	1	4	1	1	2	6	2	1		2.65	
ウグイス	2	2	3	1	2	2	4	3		2.84	
オオヨシキリ			1							0.01	
センダイムシクイ							1	1		0.01	
エナガ		1	1		2	1	1	1		0.57	
シジュウカラ	2	2	2	1	3	4	4	2		2.81	
メジロ	3	2	1	2	5	3	3	1		3.06	
ホオジロ	1	1	1	2	1	1	1	1		0.36	
カシラダカ		1				1				0.26	
アオジ	2	2	1	2	2	2	1			1.14	
カワラヒワ		2	1		1	1	1			0.55	
シメ	1	1	1		2	1	1			0.35	
スズメ	3	1	2	3	1	1	2	4		2.14	
ムクドリ	3	9	6	2	4	20	21	2		9.45	
カケス					1	1		1		0.08	
オナガ		1	1		1	1	1	1		0.52	
ハシボソガラス	1	2	1	1	2	2	1	2		1.59	
ハシブトガラス	3	3	2	3	3	3	4	4		4.13	
コジュケイ	2	2	2	1	1	2	3	1		1.76	
ドバト	7	1	1	1			1	2		2.29	
ホンセイインコ								1		0.01	
ガビチョウ	1	1	1	1	1	2	2	3		1.48	

◇考察とまとめ

(1) 全体的な傾向

一年中出现し、個体数も多いのは、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ハシブトガラス、メジロ(平均個体数の和が上位である5種)です。この結果から、調査地域の鳥類相は比較的都市型の傾向があるといえます。

(2) 渡りの区分による出現傾向

調査地域に出現した鳥類の渡り区分は以下の通りです。

- ・夏鳥：ツバメ
- ・冬鳥：ツグミ、アオジ、モズ、シロハラ、カシラダカなど

- ・留鳥：チョウゲンボウ、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラなど
 - ・旅鳥：ホトトギス、オオヨシキリなど
- 夏鳥は少なく、冬鳥の種数が多い傾向がうかがえます。

(3) 生息環境の区分による出現傾向

年間を通して、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバトなど、都市(住宅地)やその周辺に点在する緑地に適応した種が多いと言えます。上記に加え、シジュウカラ、ウグイス、アオゲラ、ツグミなど、樹林・林縁、を好む種の個体数が多いことから、調査地域はそれらの種の生息に適した環境を有していると考えられます。

また、調査地域には水路、水田、小規模な池(本山池)などがありますが、見かける水鳥(カモ類、サギ類)は少数です。ただし、カワセミ、セキレイ類(キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ)は、個体数は多くありませんが通年確認されています。夏季にはカルガモも確認されます。



チョウゲンボウのつがい(左がオス、2010年2月6日)

(4) 経年変化

2008年以前に確認されていて2009年に確認されなかったのは、オシドリ、ハイタカ、オオヨシキリの3種です。

2009年に初めて確認された種は、コサギ(ただし2008年以前にセンサス時間外の記録あり)、センダイムシクイの2種および、外来種であるホンセイインコです。

上記のうち、渡り途中や、本来の生息域から離れて出現したと考えられる種としては、オオヨシキリ、センダイムシクイ、オシドリ、ハイタカの4種が挙げられます。コサギについては、センサス時間外で複数回の記録があるので、コサギがこの調査地域を利用する時間帯がセンサス時間帯とずれている可能性もあります。また、ホンセイインコは、ここ1-2年ほどでセンサス外でも時々確認されるようになったため、個体数が増えているか、生息域を広げている可能性があります。

以上より、2007-2009年期間において、外来種であるホンセイインコを除いては、経年変化はあまりないと言えます。

◇時間外では多くの猛禽類を目撃

センサス時間外では、オオタカ、サシバ、ノスリ、ツミ、アオバズクなどの猛禽類を目撃しています。この源流域はそれらの生息・飛来にも適した環境であると言えます。

(小森谷)

虫とふれあう昆虫観察会

平成 21 年 8 月 22 日(土) 午前 9 時から、昆虫観察会を行いました。

講師：浅田真一先生(玉川大学)

松香光夫先生(玉川大学)

参加者：約 35 名



いい獲物がいないかな



自分より大きい獲物をとったクモ

配付・回覧資料：

- (1) 昆虫採集方法
- (2) 里山公園でこの 4 年間に観察された昆虫のリスト

まず、奈良上自治会館で、浅田先生から、配付された資料や、持ち込んでくださった道具を使いながら、虫のとりかたを中心とするお話がありました。(これはすぐ役立つ！)

◇昆虫採集の方法

●見つけ採り法

- ・捕虫網を使って捕まえる方法です。捕虫網は目の細かい大きな長い網で、これで草の間をすくったり(スウィーピング)、地面にいる虫を上からかぶせて採ったりします。
- ・スウィーピング用の網は枠が固く頑丈なものを使います。
- ・昆虫は上に登っていく習性があるので、網で捕まえたら、網の先をつまみ、昆虫を網の奥に登らせてとります。
- ・死んで落ちている虫を拾うことも見つけ採り法です。

●ビーディング

棒などを使って木や草を叩き、落ちてくる虫を待ち受け用のシート等で捕まえる方法です。

●トラップ(ベイトトラップ)

- ・エサを仕込んだわなを使って、昆虫をおびきよせて捕まえる方法です。木にミツを塗るとカブトムシを捕まえられます。
- ・少しだけ大きさの違う 2 つのコップを使い、外側にエサ(ベイト)をしこみ、穴をあけた小さ目のコップを内側にはめる方法をよく使います。こうすると捕まえた虫がエサをぐちゃぐちゃにしない(できない)ので楽ができます。
- ・肉の腐りかけたのをエサに使うと沢山の虫を捕まえることができます。
- ・昨日の夕方にトラップをしかけておきました。何がかわっているか見てみましょう。

◇はらっぱ広場で虫取り



お話のあと、はらっぱ広場に出て虫をとったり観察したりしました。子供達は元気に跳びまわっていましたが、暑かったです。(9 時 40 分～10 時 50 分)

◇とれたものを調べる

虫取りに興じて汗をかいいたあと、また自治会館で先生のお話を聞きました。

●どんな虫が採れたかな？

子供達の虫籠にはいろんな虫が沢山入っています。バッタ、カマキリ、トンボ、チョウ、などなど。

浅田先生：カマキリが採れたひといますかー。

子供達：ハーイ、ハーイ

というようにして、何がとれたか紹介してゆきました。

●虫の種類がわからない...

先生から虫の見分け方についてアドバイスがありました。

・昆虫には沢山の種類があります。種類を調べる時は、昆虫の特徴を見て、どの目(モク)なのかをはっきりさせてから調べると、調べやすいです。

・目(モク)とは昆虫の大まかな分類です。カマキリ目だとか、チョウ目だとか、バッタ目などがあります。

・種類を調べる図鑑には、大きく 2 つの種類があります。「日本のチョウ」のようにある目の全部の種類が載っている詳細な図鑑と、「かながわの自然図鑑 昆虫」のようにある地域でよく見られる昆虫を選んで紹介している図鑑です。用途にもよりますが、一般の方には後者のタイプの方が使い易いと思います。

参考 <http://www.honya-town.co.jp/hst/>

HTdispatch_UTF?isb=513882&iru=http://www.yurindo.co.jp/&isbn_cd=4896601602



見せて見せて

この他、虫にまつわる雑多な話題についても、楽しくお話いただきました。

11:30 頃 観察会を終了しました。参加いただいた皆様、お疲れ様でした。(磯)

水生生物のすめる環境の復元を目指して

◇失われつつある豊かな環境

奈良川源流域は、以前は、ゼニタナゴなどの魚がたくさん泳ぎ、夜道でもちょうちんがいらないほどホタルの飛び交う場所でした。豊かな自然環境を示す指標の1つであるゼニタナゴが、時代とともに、各地で次々と消えてゆく中で、この源流域は神奈川県におけるその最後の生息地でありました。しかし、ここも開発が進んで、何年か前までかろうじて生きていたゼニタナゴも、野川元会長をはじめ、何人もの当会会員の懸命な努力にもかかわらず、数年前についてここでは見られなくなってしまいました。ホタルもほとんど見かけなくなり、うるさいほど鳴いていたカエルも、だんだん少なくなってゆくように思われます。



奈良川源流域にすんでいたゼニタナゴ

今のように奈良川の源流部分が3面ともコンクリートで囲まれてしまうと、水性生物は住むところなくなります。生物は微妙なバランスのうえに共生しあっています。1つの輪がかけると、思いがけない形で影響がでます。それは人間にも目に見える形で影響してくるでしょう。

この源流域には、都市計画道路奈良1号線が通る予定でした。昨年その計画が廃止されたので、地域住民のためには、奈良1号線に関連した市有地を自然公園化して、いろいろの生物が共生できる環境として保全し、次世代に受け継いでゆくことが望ましいと思います。

(渡辺)

◇水生生物の環境保全の提案

私は、ゼニタナゴの保全に関係した者の1人として、大阪で開かれた「全国ゼニタナゴサミット」に出かけたり、ため池を守るために三重県で開かれた「池干し体験ワークショップ」に参加したりして、水性生物の環境保全に関する活動を行ってきました。都市計画道路廃止を契機として、自然公園を実現し、ゼニタナゴを中心とした水生生物を保全できる池を設けることを提案します。

ゼニタナゴはいろいろの生物と共生しあっています。その繁殖には、ヨシノボリという魚やドブ貝などが生育できる環境であることが求められます。それには、池に対して次のようなことを行う必要があります。

- ①農薬や過剰な栄養塩の流入を防ぐ：奈良川の源流からの水を引く。
- ②外来魚の侵入を防ぐ：水の流入口に網を設けるとともに、密放流や密漁を防ぐ手だてもする。
- ③ドビ流しの水栓を設ける：水質を保つために、2年に1度、

底に溜まったヘドロを流して、ドブ貝などの酸欠を防ぎ、餌となる珪藻がふえるようにする。

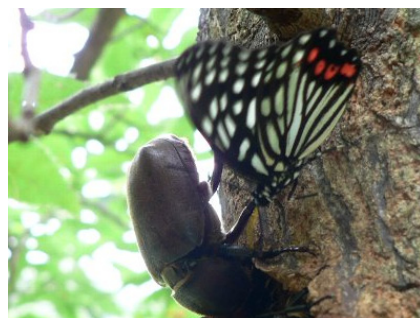
④安全柵を設ける：魚が住むにはある程度の水深も必要なので、子供などに危険がないよう、池を丈夫で高さのある柵で囲む。これには密放流や密漁を防ぐ意味もある。

このように、生物環境の保全には、それなりの労力と経費がかかりますが、それをないがしろにすれば、やがて人間は自然界から手ひどい反撃を受けるでしょう。良い環境に住むことができるようにするには、それはないがしろにできないことであると思います。

(山口)

自然との共生 - 外来生物種について

先日、九州南部でマングースが繁殖し、トゲネズミなどの在来稀少種を捕食してしまうため、防除したいがなかなかできないというニュースがありました。



横浜市にも沢山の外来生物種が棲息しています。ハクビシン、ブルーギル、ガビチョウ、写真のアカボシゴマダラなどはよく目撃します。

「外来生物種」というコトバは困った存在だという意味を持たせて使うことが多いと思いますが、外国産の生物にはもちろん役に立つものも沢山います。ウシ、ブタ、ニワトリなどの畜産種は外国のものがほとんどであるし、イヌ、ネコ、インコなんかのペット類もそうでしょう。実態としては「ほとんどは役に立つものだがなかには困った奴もいる」というところでしょう。

外からくるものは外来生物種だけではないですね。日本には外国人がいっぱいやってきています。人だけでなく、資源も、食料も、カネも、サービスもいっぱい入ってきました。労働者問題、食料自給率の問題など無視できない問題もあるものの、全体としての善し悪しでいうと「ほとんどOK だけど一部NG」ということではないでしょうか。

私は6年ほど前からここに住んでいます。江戸時代だったら郷里の茨城に定住していたと思います。私と同じような境遇の人達は沢山います。地元の人からみれば、私みたいな新住民が来たということは、善し悪しでいうと、どちらに評価されているのかしら、と思うのです。

ほとんどOK だけど一部NG、影の部分は豊かさの代償なのだ、とひとことで総括してしまうのは簡単だけど、ではそれをやめることはできるのかといえできません。むしろそれは私達の生活の前提のようになっています。現代を生きる、ということは、被害者であると同時に加害者でもある、という複雑さと難しさを受けとめ、それに向き合っていくことなのだ、それぞれの価値を認め、極端に走らず、わかり合っていく、共生していくことなのだと思います。

アカボシゴマダラの美しい翅模様を眺めながら、そんなことを思いました。

(磯)

畑づくりで自然の恵みに感謝

奈良川源流域を守る会では、地主さんと社会福祉法人グリーンのご厚意により、

草刈をする

家庭菜園化しない

などの条件のもとに、谷戸の休耕田で畑づくりを始めています。田んぼの土なのでさらさらしていず、谷戸で日照時間が短いので、野菜作りにはあまり適している場所ではありませんが、前年度やってみて、里芋や枝豆は作れることがわかりました。今年度は、もっといろいろの野菜が作れないかと試してみました。ナスなどの夏野菜や、ヤーコンなども作れることがわかりました。

この畑作りは、休耕田を草ボウボウにしないことと、会員間の親睦が主な目的ですが、できた野菜を里山祭りのときに地域の皆様にも提供させていただいています。畑の周りには生産農地があるので、農道や周辺の草刈り、用水路の清掃や農作業のお手伝いなどを通じて、農家の皆様とのコミュニケーションの輪を広げることができればと思っています。

水はけの悪い田んぼ土も、会員の努力によって少しずつではありますが、野菜用の畝らしきものに近づきつつあります。そして、無農薬はもちろんですが、有機肥料中心にして、自慢の里芋が作れるようになりました。



勢いよく育った里芋

秋冬は落ち葉を集めての堆肥作り、連作障害を防ぐための天地返し、春夏は畝作りと植え付け、草引きなど、肉体労働の連続が必要ですが、どんなものでも自分たちの作った作物は格別です。自然の恵みを有り難く頂戴しています。早春には、グリーンの皆様の応援をいただいて、耕耘機による畝作りを始めようとしています。



農作業はきつけれどなかなか楽しいものです。

農業従事者の高齢化や相続の問題があって、この付近の農地は減る一方です。この畑のある土橋谷戸には、その他にも畑、田んぼ、栗林、雑木林があって、他では見られない野鳥

なども多く、私たちにとっても、見ているだけでも、散歩するだけでも楽しい所です。何とかこのすばらしい谷戸がいつまでもあってほしいと願っています。

(川崎)

花壇のある散歩道

奈良町はらっぱ広場から西へ行ったさきの田んぼのある所は土橋谷戸といえます。この田んぼ沿いに栗林の脇を通過して玉川学園の方へ登る道は、以前、区が配布した「わいわいの道マップ」で「青葉区で一番好きな道」に選ばれた道です。



春のケシ



夏のハゲイトウ



秋のミヤコワスレ



冬のツワブキ

この道を歩くと、田んぼをわたる風が心地よく、広い空を雲が行くのに見とれてしまいます。会では、その脇の細長い花壇に四季折々の花を咲かせています。

春は青い麦と水仙で始まり、やがて矢車草が咲き、真っ赤なケシに彩られます。夏はヒマワリやハゲイトウなどが勢いよく咲き、秋はコスモスやオミナエシなどが風に揺れます。

谷戸の光と風の中で草花を育てるのは、とても楽しいです。トンボや蝶、小鳥たちもやってきます。皆様も一緒にしませんか。

(山田(美))

花をめぐる ― 里山吟行

源流域の自然を愛し、泥まみれになって畑作をする人、花壇を作る人、その他もろもろの活動をする人が集まって、平成21年4月4日に恒例のお花見会をしました。折しも芽塗りを眼下に眺めつつ。

花見酒の合間に、にわか詩人が天を仰ぎ地を睨み、花むしろの上で一句作りました。(小川)



「胡蝶の夢」見んとひと日を花の下 健一

せきれい 鶴 鶴があとついて来る野良仕事 健二

漣にふきよせられし花の塵 幸子

ししゅうから 四十雀ケイナに応へ里日和 博

つつが 同志みな 恙 もなけれ花見酒 坦

木に草に鳥むし人に春の風 直行

羽衣をまとふがごとき花の里 美那子

猛禽をはるか指さし花筵 桜子



活動歴

私たちは、奈良川源流域の里山環境が保全されることを願い、そのすばらしさを多くの人々に実感していただくために、日本野鳥の会をはじめとする自然保護団体の方々や、大学の先生方をお招きし、様々なイベントを開催してきました。その一端をご紹介します。

1996 年度 発会式／花見／春の探鳥会／座間谷戸山見学会／植物観察会／初夏の探鳥会／開成町ホテルの里見学会／田植え／源流域の草刈り／川掃除／昆虫観察会／ホテルの会／虫の声を聴く会／稲刈り／脱穀・籾すり／餅つき大会

1997 年度 冬の探鳥会／植物観察と花見の会／田おこし／谷戸・里山の保全について考える会／畔つけと田植え／源流域の草刈り／川掃除／ホテルの夕べ／昆虫観察会／虫の声を聴く会／稲刈り／脱穀・籾すり／収穫祭

★絶滅危惧種ゼニタナゴの生息地復元で、WWF Japan の1998年度自然保護事業助成決定（以後3年間助成金を受け、神奈川県水産総合研究所、玉川大学との共同事業として実施）

1998 年度 冬の探鳥会／植物観察と花見の会／昆虫観察会／春の探鳥会／開成町ホテル観察会／田植え／田の草取り／ホテルの夕べ／昆虫観察会／ゼニタナゴの池掘り／稲刈り／脱穀／草笛の会／収穫祭

1999 年度 探鳥会／植物観察と花見の会／昆虫観察会／ホテルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭／竹炭焼きの準備

2000 年度 竹の炭焼き／炭出し／探鳥会／自然観察と花見の会／草笛の会／ホテルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭

2001 年度 節分 芋煮会／探鳥会／昆虫観察会／虫の声を聴く会／収穫祭

2002 年度 冬の探鳥会／花見／初夏の探鳥会／昆虫観察会／虫の声を聴く会／里山型公園の形態や樹種選定について緑政局と協議／収穫祭

2003 年度 探鳥会／花見／植物観察会／昆虫観察会／里山まつり／里山公園の手入れ（草刈り、クズ除去等）／神奈川県教育委員会制作の学校教育放送番組「わくわくチャレンジ ― 自然たいけんにでかけよう」で紹介される（TVKで放映）／探鳥会

2004 年度 草笛と野遊びの会／昆虫観察会／里山まつり／里山公園の手入れ（草刈り、クズ除去等）／学校教育放送番組再放映／本山地の調査／探鳥会

2005 年度 探鳥会／花見／昆虫調査／昆虫観察会／里山まつり／里山公園の手入れ／環境教育シンポジウム「奈良池の保全と環境教育」参加・講演／本山地北側のゼニタナゴ池作りに協力／奈良小学校5年生が「NHK 放送体験クラブ」で作成した番組で奈良川源流域が紹介される

2006 年度 探鳥会／花見／昆虫調査／昆虫観察会／里山まつり／里山公園手入れ

2007 年度 花見・里山吟行／探鳥会／昆虫調査／昆虫観察会／里山まつり／里山公園手入れ／鳥類センサス

2008 年度 花見・里山吟行／探鳥会／昆虫調査／昆虫観察会／土橋谷戸で野菜作り開始／環境省の「モニタリングサイト 1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」で奈良川源流域が調査地に選定され、当会が調査を開始／里山公園手入れ（樹木への名札付け、古い支柱はずし、他）

2009 年度 花見・里山吟行／探鳥会／昆虫調査／昆虫観察会／里山まつり／奈良小学校の「ふれあい祭り」にパネル展示／都市計画道路奈良1号線計画地の自然公園化を提案する活動／里山公園手入れ（竹間引き、樹木への名札付け、他）

★誰でも参加できる定期的活動 鳥類センサス（毎週土曜日7時から土橋谷戸で、鳥の種類と数を記録）、花壇の手入れ（第1、第3土曜日）。飛び入り参加を歓迎します。都合のよいときだけでいいです。

平成22年度の予定

5月22日(土)8時より 春の野鳥観察会（2010年国際生物多様性年CBD/COP10記念「全国一斉自然かんさつ会」参加企画、講師：仲俣申喜男先生）

7月4日(日) CDB/COP10 生物多様性の道プロジェクト企画「市民調査全国大会」で活動成果を発表（主催：（財）日本自然保護協会、場所：国立オリンピック記念青少年総合センター）また、**8月**には**昆虫観察会**、**11月**には**里山祭り**が予定されています。

入会のご案内

○会費：年間2000円（家族は無料）

○会員の方には、会報「カワセミだより」をお届けします。また、定例会のお知らせをするほか、随時、行事のご案内をいたします。

○連絡先：「奈良川源流域を守る会」事務局

電話 045-962-9321（渡辺）、e-mail: nara@yato.jp

○インターネット上の当会のホームページでは、活動の内容と、会報のバックナンバーをご覧になれます。（<http://nara.yato.jp>）

○緑山ハーブガーデン「ナチュラパス」でも、随時、入会の受付をしています。

○ご一緒に谷戸での草花づくりや里山公園の手入れ、あるいは鳥の観察などをしませんか。活動日のお問い合わせ等は、事務局までお寄せください。

編集後記

2009年6月に会長が山田から渡辺に交替しました。新米会長は文書編集の仕事に不得手なので、会報はこれまで縦組みでしたが、それを今度は通常のワープロ文章のように横組みにしました。

源流域に住んでいますと、春はキジの声で目覚め、夏は蝉時雨とカエルの合唱に聞き入り、秋は田畑のみのりを眺め、冬は多くの鳥の渡りを見ることができます。花に囲まれ、自然の息吹を感じる散歩道があります。それが大きな住宅街に隣接しています。この貴重な環境が永く続くことを願い、地域の皆様のご支援、ご協力を頂きながら、そのために微力を尽くしたいと思っています。また、多くの方々にも、源流域の自然のすばらしさを感じていただくことを願っています。この会報がそれに少しでも役立てば幸いです。

（渡辺）